

## イノベーションの基 —産学・地域連携によるグローバルトップ性能製品の開発—

産学官連携推進部 産学・地域連携室長、イノベーションコーディネータ

おざき こういち  
尾崎 浩一

### これからのものづくり中小企業

これまで、わが国の製造業の強さの根幹は、高品質で低価格な部品を迅速に供給してきた中小製造業の高い技術力によるところが大きく、中小製造業のサポートインダストリーとしての高度な技術が川下企業の世界市場での高い競争力を支えてきました。しかし昨今、資源と安価な労働力に恵まれた大規模新興国が大きな市場を形成しつつ発展し、川下企業が製造の現場をグローバルに展開しています。この状況下で、中小製造業もグローバルな進出を求められ、そこに活路を見出すことを要求されています。今後、日本の中小製造業の目指す方向が世界のサポートインダストリーとしての発展であることは間違いありません。しかし、川下企業の組立工場に地理的に近いことと立地や労働コストの安さが大きな競争優位性を示すからといって「グローバル化=製造現場の海外移転」という捉え方は、それに対応できる中小製造業は限られているのが実態ですし、国内産業の空洞化を招きます。

これからのものづくり中小企業においては、高度な技術力だけでは不足で、それをコアとして新分野に進出していく研究開発型企業として生き残りを計ることが必須だと考えま

す。理想は、自社の高度な技術で世界的に新規かつトップ性能の自社製品をもち、自社をブランド化すること、また製造現場の主要部を日本国内に残すことです。産総研の技術シーズが中小製造業の高度なものづくり技術によって実用化するような、中小製造業と産総研の相互補完的な連携が、イノベーションの基として極めて重要であると考えます。

### 産学・地域連携室の活動と事業「グローバルトップ性能製品の評価手法の開発」

産学・地域連携室には、特に産総研OBなど各分野のベテランからなる産業技術指導員がいます。彼らは産総研地域センターの産学官連携センターと協力して、地域の企業に産総研の技術を普及し、さまざまな企業ニーズに対して解決のための共同研究をコーディネートし、共同研究開発を実行するための公的研究資金獲得を支援するなどの活動を行っています<sup>[1]</sup>。

公的資金の獲得を目指す前段階において、産総研のシーズ、設備、ノウハウを活用して提案準備のための「中小企業共同研究スタートアップ事業」を行い、多くの共同研究を効果的に実行してきました。

さらに、このような共同研究で優れた製品を開発したとしても、中小企業の海外展開のためには、製品の性能、優位性を説得力のある評価法で海外に示していくことが重要です。そのため、2012年度からの事業として「中小企業グローバルトップ性能製品の評価手法の開発」を実施しています。産総研の技術シーズに基づく製品の性能を客観的に証明する評価手法を確立し、海外展示会や国際学会で、性能および評価手法を、産総研職員が海外ユーザーへ直接説明する活動です。

### これからの中小企業との連携

産総研の技術シーズで中小企業がトップ性能の製品を開発し、グローバル市場のシェアを確保していくことは、企業にとっては自社製品による世界進出と自社ブランドの構築であり、産総研にとっては研究成果の実用化とグローバルな普及です。中小企業との連携のあり方として重要な方向であると考えます。

### 参考文献

[1] 尾崎 浩一：産総研 TODAY, 12(8), 20 (2012).



講演中の筆者  
第14回産学官連携フォーラム(2013年10月24日、郡山市)にて